

地域文化について

渡 敏昭

十一月は各地で文化祭、芸術祭など文化に因んだ行事が催され、郷土大代も盛大に繰広げられ有意義でした。お互、よう立派な人間になろうとして、教養をつんでゆくとともに、文化の価値があると思います。文化とは意味が広く、とらえどころのない程、奥深いものですが、一面文化は私達の身近にあることも認識し、皆で自分自身を高めて行こうと云う心構が大切かと思えます。

生花のよき

横田 正子

生花を習い始めて一年が過ぎました。未だあまり上手に生ける事は出来ませんが、先生に教わりながら、楽しくやらせて頂いておるます。最初の頃は花を生けるのに大変でした。最近では梁しみ下ら花を活けておるます。

玄關において毎日眺めては心をなごませておるます。家に来られたお方が花を見られ、しばらく話しがはずむ事もあります。そんなとき、生死を習って、いよかつたなあ、とつくづく思います。

書の道に取り組んで

五風会員 後藤マサエ

美しい自然、美しい絵を眺めて感動した時の経験は、これにも有ることです。昨年展示で盆栽、工芸、

書で夫々工夫と自分の顔が深く秘められてる様に思ひ、しばし足を踏みとどめさせられました。

特に書は、目も浅いのに、農業のかたわら、こんなにも書けるものかと、筆の運びにその美しさに驚いた程です。

趣味を梁しみ下ら生ることも特に大切だと思ひます。一年半と熱中すれば、きつと見違える程の成果はあると思ひます。

それはみんな自分のものです。昔によらず夫々、天命を生かそうではありませんか!!

◆ 銭太鼓クラブ

今田 文子

名前の如く賑やかな、楽しいクラブです。川本町から先生方が来られ、早打ちを習い初めた頃は男女合わせて二十人位だった人数も今は大減った様です。

先生方の三味線と生の美声に合わせて銭太鼓を打つのは、何とも気分よいものです。一人でも多くの方が一緒だと喜ばれる事と思ひました。

一日働いた後に梁しみ下ら体を動かす事は健康の上でも良い事と思ひます。

敬老会等に被褥する時などは皆で合わせる為にお互に注意し合い無中が頑張りました。

一ヶ月百円の会費ですが、豆しほりの手拭も、前掛も少し揃いました。一人でも多く参加されれば大歓迎です。

◆ 詩吟会

渡 辺 信 義

吟は是れ心の創作、感激交流・音律・鍛錬也。これは吟道五則と云つて、詩吟の憲法に当るものです。昨年九月に小人教で琴足し講師の熱心を指導に支え

られ、先月秋会、式兼一週年記念を終えられました事を心から感謝致しておうます。昨今世の中は日進月歩と激動の度を加え、人間説もが騒然として相せめぎ、相ひしめいて、世の荒波に浮沈み乍ら生きています。私は詩吟を吟じる時自己を問いなおし、人間性を回復する思いが致します。

詩吟は人間性を永遠に純化し、永遠に香る高からしむる日本人の生んだ尊い珠玉の一つだと思っております。

短歌

井の中に 投げる吟詠
 俊城会
 心なごみつ声をかがりに

あすなろ句会の歩み

昭和四十年、婦人会の文化活動の一端として公民館の応接のほと、荒本晴秋先

生の御指導を仰ぎ、会名「あすなろ」として発足した。但し二年後に会員十五六名で独立し、昭和四十二年第一句集を刊行、第二句集を十週年記念に刊行するに至り、どうにか軌道に乗るかけた折柄、昭和五十二年三月に晴秋先生御逝去され、暗夜に灯を失い、なつた一同であったが、思い直して相互の信頼と努力で奮起して歩を続けられている現状である。会員十二三名で大田石見俳誌に投可している。

俳句

老かなし 暮る、も栢田
 去りやらす
 凶作や 大栢架解かれ
 ゆく夕べ

グループ紹介

お茶、安未節(民謡)神楽読書、ちぎり絵各グループは次号にて紹介致します。

郷土を知り

昔を知ろう

春日神社

天児屋根命
 経を命

姫大神

武彦命

現在石清水八幡宮(本殿の向つて左の建物に)、明治四十年(一九〇七)に合祀になっています。

明治十二年一月(一八七九)文家村(用保より小二区)郡長へ報告したものとよります。

- (1) 初詣年(不詳)
- (2) 在所 宇栢田(現在栢田手知焼氏宅上五十米位の地裏と思われ)
- (3) 敷地 十六坪
- (4) 社 四尺四方
- (5) 祭日 十月一日

以上の記録があり、尚大日本郷の神名祭神等は、その際報告されたものは二十社の記載がしてあります。

参考資料

大代の丁史資料
 大代町誌

(記事、山本清助)

田植ばやしで得たもの

中三年小笠原恵功

一年生の時市内の音楽会で田植ばやし出演の時、皆に笑われた事で劣等感を持ちました。然しTVで京都の中学生が能を受け継ぎ、自分達の手で次の世代に伝えなくてはいけないぞと自信を持つて云った姿を見て田植囃子に対する認識が変りました。よし自分でもと決意しました。三年間の田植囃子を通じて、郷土の丁史について関心を持ち田植囃子伝承に一歩をかけた見たいと思えます。(要旨)

(以上島根県少年弁論大会特送作)